

[日韓コイノニア] 8. 4. 2025 大方教会 吉鉉珠牧師

聖書箇所：創世記 16:1-6

説教題：エル・ロイ ご覧になる神

創世記16:1-16(パワポ)

本文は、アブラムの家庭の不和の話。

アブラムの妻のサライが、女奴隷ハガルを迫害した。ハガルは、その迫害に耐えることが出来ず、荒野に逃げた。

なぜ、このような不和が起こったのか？

神の時を待つことが出来なくて発生した。

主なる神様は、アブラムに子孫を与えると約束なさった。

創世記12～15章を見ると、神様が3回も(創世記12:7, 13:14-15, 15:2-5)、神様がアブラムに子孫(息子)を与えると約束して下さっている。

アブラムは、その約束を信じた。

創世記15:6(パワポ)

アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

それなのに、何の知らせもなく、ただ時間が流れた。

創世記16:3を見ると、

アブラムがカナンの地に住んでから、十年が経っていることが書かれている。

アブラムの年は85歳、サライの年は75歳になっていた。

アブラムとサライは、どれほどに息子が与えられえることを待ち望んだことだろうか。しかも、神様が直接下さると約束されたのだから。それなのに、何の知らせもなかった。

いくら神様を信じているアブラムだからと言って、だんだんと年老いていく自分自身の姿を見た時、どれだけ心に苛立ちを覚えるしかなかったことだろう。でも聖書を見ると、妻のサライがもっと苛立ち、焦っていたように見える。

そして、どのようにしたのか？

エジプト人の女奴隷ハガルを夫に与え、息子を生むようにさせた。

これが、不和の原因となった。

神の時を待つことが出来ずに、自分の考える方法で問題を解決しようとした。

確かに約束して下さったのに、それを人間の考えや解釈でひっくり返してしまうという間違った選択をしてしまった。

サライは、「神様が約束なさったけれども、お出来にならないこともあるんだな」と疑ったのかもしれない。

「このようにして月日は流れ、私の体は老いていくのに、もう手遅れだ」と思ったのかもしれない。

そして、神の約束をこのように解釈した。

創世記16:2(パワポ)

このようにして間違った選択、不信仰な選択をした。不幸の原因。

御言葉通りに信じ、忍耐し、待つことの出来る皆さんでありますよう願います。

神の時は至って正確である。早くもなく、遅くもない。正確な時、的確な時にこたえて下さり、成就なさる。

二人の女性の争いが始まった。

創世記16:4(パワポ)

「蔑視(軽く見る)」 - (ヘブル語) カルラル、下手に見る。見くびる。

どれだけ心高ぶったかと言うと、自分がサライの奴隷であるという事実を忘れるほどに。
まるで自分が、アブラムの本妻であるかのように行動した。どれだけ高慢だったか！

サライが、黙っているわけもなく、

創世記16:6 (パワポ)

「迫害した(苦しめた)」 - (ヘブル語) アナ。いじめる。悩ます。

ハガルは、ハガルはそのいじめに耐えられず、荒野に逃げた。

「ハガル」 - 逃亡者

このすべてのことは、神の時を待つことが出来ずに、人間的な方法をもって解決してみよう
とした結果。

神の言葉、約束を人間的な考えや解釈で変えたり、ひっくり返してはならない。

御言葉通りに信じて、忍耐して待つことの出来る信仰を持つ人となってほしい。

今日の御言葉を通して、私たちが必ず覚えておかなければならない部分がある。

神様は、アブラムの家庭だけに特別な恵みをお与えになったのではなく、荒野に追い出さ
れてしまった卑しい身分であった女奴隷ハガルにも、同じ恵みを施されたという事実。

神様は、特定の人のみを愛され、その人たちだけに恵みを施し、助けを与えるお方ではな
い。

主人から苦しみを受け、追い出された卑しい身分の女奴隷の痛みも見ていて下さり、
恵みを施して下さるお方。差別をされない主なる神様。 公平な神様。

荒野に逃げたハガルを探すために来られた。

創世記16:7-8 (パワポ)

「シュルへの道にある泉のほとり」- シュルの荒野にあった泉。シュルとは、カナンとエジプ

トの間にある砂漠地帯。

ハガルが、自分の国エジプトに帰ろうとしていたことが分かる。

荒野を歩き、エジプトに向かっているハガルを探し出していらっしやった。

選びの民であるイスラエル民族でもないエジプト出身の女奴隷のところに来られた。

事細かく事情をお聞きになった。「どこから来て、どこへ行くのか。」

そしてハガルに、どこに行けばいいのかを、どのようにしたらいいのかを教えて下さった。

創世記16:9(パワポ)

ハガルに、最善の道を教えて下さった。

荒野において彷徨ってしまうと生きることが出来ない、しかも、おなかの中には、新しい命を宿しているではないか。

「主人のところに帰りなさい。帰って行って、従いなさい。我慢して、忍耐しなさい。従うならば、主人のサライも変わる。

ハガルが生きることの出来る最善の道を教えて下さった。そして、ハガルを祝福した下さった。

創世記16:10－11(パワポ)

「あなたが男の子を生み、その名前をイシュマエルと名付けなさい。」

「主が、あなたの苦しみを聞き入れた。そして、あなたの子孫を増し加え、数えきれないほど多くする。」

この神様の御言葉にどれだけ大きな慰めを得たことだろうか。

悲しみ百倍、千倍のところに、勇気を下さった。

ハガルが、人生の大きな危機と苦痛の瞬間に出会うが、探して来て下さり、行くべき道を教えて下さり、自分を祝福して下さった神様をハガルはこのように呼んだ。

創世記16:13(パワボ)

「私を見て下さる神」- (ヘブル語) エル・ロイ 「ロイ」- 見る。探る、調べる。

それまでハガルは、主なる神様はアブラムの神、サライの神とだけ認識していた。

アブラムとサライとだけ共にされ、アブラムとサライの味方だけになり、アブラムとサライの側にだけ付き、祝福される神と思っていた。

自分は卑しい身分の者であり、見捨てられた存在であり、どんなに努力しても、出身が奴隷であるがために、人生が良くなる、好転することのない存在だと思っていた。しかし、神様は、そんな自分のところに探して、来て下さった。

危機に陥った自分を探し出し、行くべき道を教えて下さった。慰めと勇気を下さった。自分を祝福して下さった。

ハガルは、荒野で出会った神を忘れることが出来なかった。

この神様に出会った瞬間、サライに対する怒りは静まり、帰ることなんか出来ないと考えていた家に帰る勇気も得た。そして、その神様を、「エル・ロイ」と呼んだ。「私を見ていて下さる神。」

私のすべてを見ていて下さる神。私の境遇、悲しみ、痛み、彷徨い、危機。細やかに見ていて下さる神。

そして、神様に出会った場所にあったシュルへの道にあった泉を、井戸を、「ベエル・ラハイ・ロイ」と呼んだ。

創世記16:14(パワボ)

「ベエル・ラハイ・ロイ」 - 生きて私を見ていて下さる方の井戸。

神に出会ったハガルは、帰って行った。

創世記16:15－16(パワポ)

アブラムは、ハガルを受け入れた。サライも。見ていて下さる神様の恵みで、すべてが回復した。

アブラムの神、サライの神は、ハガルの神にもなられた。

そして、その神様が、皆さんの神でもあられる。

私たちを見ていて下さる神様。見ていて、探って下さるがために、私たちのすべてのことを知っておられる方。

詩編139:1－4(パワポ)

座って、立ち上がり、話すこと。心配、悩み、苦しめられ、苦しんでいること、悶えながらあれこれと考えてしまうこと。

望み、願い。

すべてを見て知っておられるがために、私たちの叫びにもお応えになることがお出来になる。

助け、いたわり、守って下さる。

最善の道へと導いて下さる。慰めと勇気。祝福して下さる。

祝祷：詩編139:1